

シリーズ 1、コロナ禍でEPA国家試験対応に混乱！

対面教育から不慣れなオンライン教育で、受験者困惑

- ※ 前号の前書きで指摘した通りに、現在は社会状況がなっている。来月 1 月、並びに 2 月に行われる国家試験は、例年通りとはいかず、準備不十分なままに受験せざるを得ない現状がある。特に、合格率は今年度実績を下回る可能性が大きいと言える。
- ※ 即ち、低い合格率がさらに低くなると受け入れ機関は、労働力を確保する要素が縮小し、3 年後にはこの縮小幅が大きく受け入れ機関に影響されることが予想される。

- ※ この状況を打開するためには、現有的受験者数を確実に育成し、労働力にする必要がある。即ち、合格率を前年度より 30% アップしなければ現有的労働力確保には至らない。
- ※ 受け入れ機関の中には、EPA から特定技能ビザに切り替えて急場をしのぐ所もある。しかし、このビザは 5 年間の滞在ビザであるために、5 年後には必然的にいなくなることを認識すべきだ。

I、【 現有的受験者を合格させるために、今できること！ 】

1、すぐ始めよう【 学習計画 】作りを！！

- 表 1 の項目に従って、「人材確保計画」を実践するためには、受験者の言語能力を客観的に把握することが重要。そのためには、【10 分間テスト】を実施することも一つだ。この到達度で、計画の作り方や方向性が決定される。
- 即ち、受験者の言語能力を客観的に把握しないままに計画しても、机上の空論となる。そうならないためには、正確な言語能力把握が絶対必要だ。
- 2、「学習支援金」を有効に活用すべきだ！！
- 受け入れ機関の中には、「学習支援金」の大半を備品購入等の項目で、実際の教育費に充当していない所があまりにも多い。そして、教育費をまるで物品購入のような価値観で、できるだけ値切って安ければよいという傾向が多々ある。その結果が毎年の合格率に表れていることを反省すべきだ。
- この際、「5 年先、10 年先を見越した人材育成」をしない限り、日本の介護分野は、人材不足による「統廃合時代」を迎えるしかなくなる。これを避けるためには、遅くとも今からでも現有的 EPA 受験者を確実に人材育成して、国家試験合格を目指し、間違いなく合格者にしなければならない。表 1 の内容を確実に実行することが解決策となる。

表 1、【 すぐできる五つの条件 】

- 1、言語能力を客観的に把握すること！
- 2、到達度に合わせた【学習計画】を立てること！
- 3、【計画】は受験対応能力と合格能力を養うこと！
- 4、定期的に客観的な到達度を把握すること！
- 5、最悪でも足切り合格までの言語能力を養うこと！

3、やる気があれば、誰でもできる【 計画 】を！！

- 表 1 の【すぐできる五つの条件】を読めば、今すぐにも実行できる内容だ。あえて言えば、1 と 4 は経費が掛かるとしても、2,3,5 は、間違いなくその経費の範囲内で実現できるものなので、「学習支援金」を有効に活用すれば、今すぐにも誰にでもできる【人材育成計画】となっていることを認識すべきだ。
- 多くの受け入れ機関では、現場担当者・責任者が表 1 のような【学習計画】を実行したくても、上司、並びに経営者が「金のかかることは嫌なんだ」という本音の声が多々聞こえてくる。その結果、合格できずに、人手不足が生じて、多大な経費が必要となる人材派遣会社からの受け入れをしなければならないのはめになっているのが、今の実態だ。

II、【 コロナ禍での学習環境の整え方とオンライン教育の本当のメリット 】

※ コロナ禍は、予防薬が開発されないことで長期戦になるとの見方が強い。そのことを考慮して、従来型の学習形態を必然的に変えざるを得ない。

※ しかし、人材不足はコロナ禍と関係なく、年とともにその不足率は高まる。即ち、EPA 頼みの傾向がますます強まるが、それは人材確保の確実な方法でもあることを認識すべきだ。

表 2	間接式授業形態の種類	授業理解度の特徴
1、	Eラーニング	一方的な情報提供。（聞くだけ・見るだけの学習）
2、	オンラインワンウェイ	一方的な説明指導。（受け身の授業形態）
3、	オンライン双方向	三種類に分けられる。教師の熟練度合により、差が生じる。
三 種 類	A、教師発声 70～80%	受験者反応 20%～30%のために、一方的な説明指導になりがち。
	B、教師発声 40～50%	受験者反応 60～50%のために、受動的な姿勢が大きい。
	C、教師発声 20%	受験者反応 80%のために、能動的な姿勢で理解度が高まる。

1、「学習環境」とは？！

- 「学習環境」の概念は、一般的には所と物の整備を思い浮かべる人が多い。だが、所や物を整備しても学習する本人が意欲がなければ、その環境はいかされない。
- 即ち、学習意欲を持たせ、それを持続させることが、本質的な「学習環境」を整える大前提となる。

2、オンライン教育の「メリット」とは？！

- 表2の1と2は、時間的な拘束がなく、自由に時間を選択できる。この点、拘束される時間が選べるために、学習時間を都合できることがメリットとなる。しかし、3は双方向授業であるため、時間設定を定めなければならない。だが、双方の相談で時間変更も可能性がある。
- 3の形態の最大のメリットは、通学や訪問教育とは違い、時間的な無駄がないことと、通学にかかる経費の削減にも繋がる。対面式と同様に、質問ができるので、理解力が深まり、合格率の可能性が増える。

3、オンライン教育の「デメリット」とは？！

- 対面式とは違い、教師側が直接指導できないために、授業内容によっては、受験者側が理解しづらい要素が生じる。そして、人との触れ合い関係がないために、心情的な交流の要素が低い。
- しかし、前述の要素は、間接教育の練度によって異なる。即ち、練度の高い教師であれば、このデメリットも十分に克服でき、対面式と同様の人間関係を形成することができる。
- 表2の1と2は、受験者が集中して学習意欲を持続させることは、非常に難しい。このため、多くの場合は「聞き流し型」となり、学習効果はあまり期待できない。さらに、疑問や質問があっても、それを解決できないままに授業が進行するため、結果としては、多くの場合、50%以下の理解力しか得られない。

Ⅲ、【オンライン教育の効果をj知るために！】

1、教育効果が確認できなければ、プロではない！！

- コロナ禍で急速にオンライン教育が流行り出した。しかし、その内容を調べてみると、表2の1と2は、従来型の形態で教育効果を考えると、問題外の教育といえる。今、急に行われ出した形態は3の形態だ。しかし、双方型といえども、表2の三種類A、B、Cによって、大きく教育効果は異なることに注目すべきだ。
- さらに、ほとんどのオンライン教育は、「やりっ放し型」といえる。これは対面式であっても同様で、表3のように、それぞれの教育段階で「教育効果測定」をしないままに進行しているものが多い。即ち、受験者の言語能力を知らずして、授業を進めることは、教育者としてはあり得ない姿だ。よって、教育効果を出せない教師は、プロではないと断言できる。

2、科学的な教育ができない教師は、素人だ！！

- 表3で表したように、言語能力段階の節目で必ず、到達度を客観的に把握できる数値で表すことは当然だ。特に、オンライン教育だけで満足するのではなく、必ず、到達度を確認する試験を並行的に実施して、到達度を把握すべきだ。これは対面式でもいえることで、多くの現場からは、「授業記録・評価記録・今後の指導方針など」がないと言っている。この状態で不合格になったケースは、全国に何百とある。
- このような状態を許している受け入れ機関には、知縁や人間関係による自称日本語教師を採用している所が多い。また、日本語学校や専門学校に通学させている所は、「教育は十分にしている」という自己満足の「つもり型」の経営者であったり、責任者のいるところだ。
- 対面教育からオンライン教育に変更した途端、教師側からは「なかなか受験者に意志が伝わらない」とか、「触れ合いができない方法なので理解が深まらない」等の声が弊社に寄せられている。一方、受験者側からは、「勉強に集中できない」とか「先生の言っていることがよく分からない」と言う。
- コロナ禍の中で、今後の人材育成をするより良い方法は何かを真剣に考えなければならない。そのためには、教育科学的な視点を持つことが最も重要だ。

表3、【評価段階】

段階	評価時期	言語能力評価内容
1、基礎言語	Aレベル	基礎語彙力
	Bレベル	構文力
	Cレベル	読解・文意力
2、生活言語	Dレベル	読解・文脈力
	Eレベル	日本事情・基礎専門語彙力
	Fレベル	日本事情・基礎専門知識力
3、職域言語	国1レベル	小文文脈読解力
	国2レベル	中文文脈読解力
	国3レベル	長文文脈読解力

Ⅳ、【急場しのぎでは、人材育成は不可能！】

1、即席オンライン教育は効果がない！！

- コロナ禍で慌ててオンラインに切り替えた学校、並びに日本語教師が非常に多い。教師側も受験者側も共に初めての試みなので、混乱し困惑している声が多々ある。
- オンライン教育を行うには、一定の間接教育に対する熟練度がないと、受験者の理解力は向上させられない。一夜漬けのやり方でこの時期をしのいだとしても、「人材育成」ができるとは限らないことを認識すべきだ。

2、人材育成は「併用型」が最適！！

- 前述したⅢ【オンライン教育の効果をj知るために！】で解析したように、オンラインだけではなく、並行して到達度を見る通信教育を行わなければ、教育効果を測定できない。「併用型」でなければ、無意味な教育となる。
- 形式的な教育を整えるだけではなく、実質的な教育効果の上がる学習環境と教育指導を求めるこそが、絶対に必要な時期だ。

★ 受験者にも渡して、「読み聞かせ」をして下さい。

コロナ禍で、どう変わった?? 施設の声

ことばの研究社
TEL 086-486-1742
FAX 086-486-1744
kotoba_kan@yahoo.co.jp

オンライン教育の効果に疑問!!

- 日本語学校に通学していたが、コロナの影響でオンラインに切り替えている。学習を見て思うことは、オンラインのほうが受験者がだらけている。対面式の学習のほうが緊張感があり、良かったと感じている。
- そうは言っても、コロナの中、通学させることは施設としても怖い。施設の中で感染者が出てしまったら大変なことになる。オンラインでの学習をしているが、効果は下がっているの、コロナが早く治まって、通常の生活に戻ってほしい。

(東京都・K施設)

事業団Eラーニング授業に不安!!

- 今は、事業団のEラーニングで自学させているだけで、それを職員が確認しているだけだ。しかし、この授業は一方的な授業なので、受験者は集中力が途中でなくなり、だらけた状態だ。また、勉強の効果を客観的に見れないから、自信を持つことができないでいる。
- そして、集合研修が中止になっているので、勉強した結果が他の施設の受験者と比較できないから、自分達の勉強の仕方に不安を感じている。

(静岡県・K施設)

不慣れな授業のために、教育効果が期待できない!!

- 日本語教師が来て指導していたが、コロナの影響で施設内に入れない状態だ。施設内はゾーニングしていて、受験者同士が集まって学習できない。そのため、スカイプ学習をしている。
- 今までと同じ教師だが、スカイプでの指導に慣れていないのか、受験者も対面の時の方が反応が良い印象がある。スカイプ授業に慣れている教師でないと、上手くいかないだろう。この状態では、教育効果は期待できない。

(大阪府・N施設)

WEB授業で、教育現場が混乱!!

- 日本語教師が来て指導していたが、コロナの影響でお互いのために、WEBでの指導に切り替えた。受験者も教師も慣れていないので、対面の時のようには、上手くいかないのが現状だ。
- さらに、電波の影響で途切れ途切れになったり、システムの関係で、人数制限もあるため、色々といわれるまで問題がある。(茨城県・S施設)

決して、期待できないオンライン教育!!

- 日本語教師が来て指導していたが、「コロナの影響があるので、施設には行きたくない。スカイプに切り替えて指導をさせて欲しい。」との申し出が教師からあった。そのため、スカイプ授業に切り替えた。
- ところが、テキストの頁数を指示して、読ませようとしても、受験者が違う頁を読んだり、指示通りにできない場面も多々あった。同じ部屋にいれば、すぐに指摘して対応できるが、スカイプではちょっとしたことで時間もかかってしまっているようだ。これでは、教育効果を期待できないと感じた。(神奈川県・Y施設)

★ You Tube を開設しました!! ★

スカイプ授業を見学する職員の方もいれば、一方で、「見学したいけど時間が合わない・どうしても仕事を抜けることができない」などの声が多数寄せられていました。何とか、解決できないか?と考えたのがYou Tubeの開設です。

※ You Tube では、月～金曜日まで毎日情報提供しています。その内容は、教材紹介や「到達度試験」の内容だけではなく、例えば、一年目・二年目・三年目受験者の学習内容とか、授業内容を簡潔にまとめてご紹介しています。特に、受験者の声を紹介していますので、関係者には参考となりますから、是非、ご視聴下さい。「ことばの研究社」でご検索下さい!!

【受験者の言語能力を客観的に把握すること!!】

- ※ 多くの受け入れ機関では、未だに受験者の言語能力を客観的に把握しないままに、一年目から「専門教育優先」の考えで、教育指導をしている。その結果が、毎回の低い合格率にも具体的に反映されている。また、業務を遂行する場合に、言語能力が不足しているため、実務能力が問題となっている。
- ★ 基本は、受験者の現状の「言語能力を把握すること」が、絶対必要だ。その上で、言語能力に基づいた【三か年学習計画】を立てることが重要だ。即ち、「到達度試験」に参加すれば、この問題は解決!!
- ★ 把握する手段としては、「基礎言語能力」が客観的に数値で分かる弊社の「10分間テスト」がある。このテストは「読解力」だけではなく、「構文力」も分析でき、受験に必要な「瞬時反応能力」と、「言葉に対する捉え方の理解力」の差異をも判断できるものだ。是非、「10分間テスト」をご試用!!

「到達度試験」の内容は、You Tube で、ご視聴下さい!!

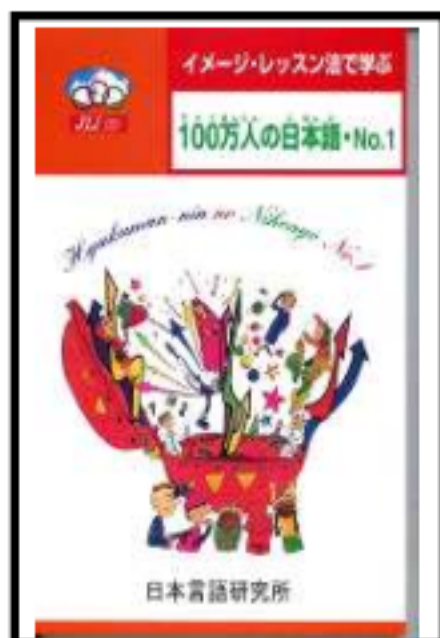
自学能力を養うための 適切な教材！！

- ① 視覚的に学べる ② 日本語の「規則性と用法」が学べる
- ③ 漢字も類推して読める ④ ストーリー性があり、体系的に作られている

EPA学習支援
スカイプ・電話の問合わせ先
ことばの研究社
電話：086-486-1742
FAX：086-486-1744
岡山県倉敷市徳芳 841

学習支援 主教材

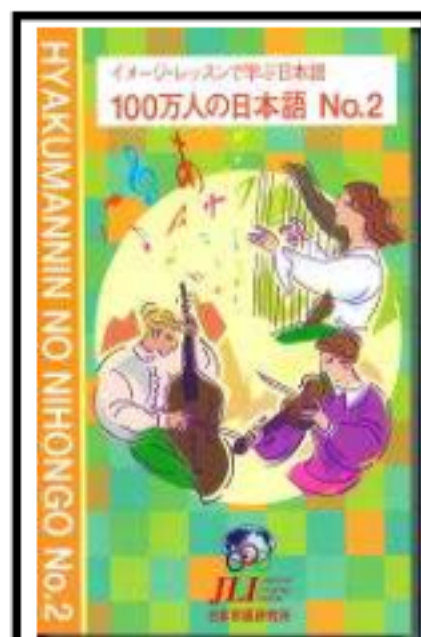
基礎言語能力レベル



【テキスト「100万人の日本語 No.1」】

ひらがな・基本漢字の習得とともに、全ての言語活動の基本となる概念を形成し、名詞文・存在文・普通動詞文を無理なく学習できる構成となっています。(2805 円)

※ 習得漢字数 310 字～620 字



【テキスト「100万人の日本語 No.2」】

会社や学校、家庭内などあらゆる場面における会話を中心に構成され、社会生活に必要な抽象語を理解しながら、性別や立場による言葉の使い分けを習得できます。また、形容詞文学習により心情・語感表現力の基礎を築きつつ、各ページのコーナーで日本語のあらゆる規則性と用法を自学できます。(2805 円)

※ 習得漢字数 420 字～840 字

※ 習得語彙数 570 語～1,710 語

生活言語能力レベル



【テキスト「100万人の日本語 No.3」】

日本社会に適應できる人間関係を理解して、目上の人に対する礼節を保つ表現力が身につきます。

論理的に文を組み立てた長文が書けると同時に、漢字熟語を使った要約文を書けるようになります。

仕事に関連する語彙を自分で辞書を引いて調べることができます。(3,300 円)

※ 習得漢字数 850 字～1,700 字

※ 習得語彙数 1,110 語～3,330 語

使ってみてビックリ！
教育効果の高さ
学習支援 副教材

基礎言語能力レベル

職員の手が掛からずに、
受験者だけで勉強できる教材



表面にはひらがな文字が一文字ずつ書かれており、裏面にその文字を使った語のイラストが色彩鮮やかに描かれています。
イラスト面には「ひらがな・カタカナ・漢字」の3種類でその言葉が表記されており、学習者が文字を比較しながら自学できるつくりになっています。基礎教育の日本語学習者に最適な内容になっています。
(1,155 円)



ひらがな文字の自学に最適な教材です。字形、書き順などの練習だけでなく、全ての日本語の基礎となる「しつもとこたえ方」に絶対必要な発話方法を、身近な事例を使って学習できるようになっています。社会生活に必要な最低限の語彙も同時に習得し、定着できるように作られています。
(1,980 円)

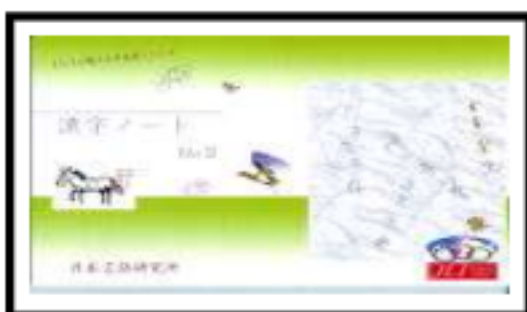


『100万人の日本語 No.1』に沿った構成となっており、文型・成文の習得をしながら効率的に漢字の読み書きが習得できるようになっています。
非漢字圏の学習者が漢字習得をする上で最適。
また、中国人学習者にも同様です。(1,496 円)

生活言語能力レベル



カタカナ語彙を使った場面を表すイラストが各ページにあります。このノートは説明文と会話文が綴り成されています。この場面を紹介する文は、外来語の理解とその音出し練習をしながら、練習問題によって読解力と文型の応用力を養えるようになっています。
(1,496 円)



『100万人の日本語 No.2』に沿った構成となっており、漢字習得と成文練習のみならず、読解力も同様に養えるように作られています。
漢字の「へん・つくり」の付録もあって、漢字の成り立ちに対する理解ができる内容となっています。
非漢字圏の学習者が漢字を習得する上で最適。
また、中国人学習者にも同様です。(1,496 円)

◎ 到達度試験Aコース(独立型)

ことばの研究社

<自学能力養成型コース>

【一年目 到達度試験 初回レベル～Dレベル】

※ 【自学能力】を養うことを目的としたコースです。
言語能力は、日本人の中学2年生までの能力に達するようにプログラムされています。

※ 【自学能力】を養う教材を使用

主教材 ・「100万人の日本語No.1」

(日本語の規則性と用法育成用)

・「100万人の日本語No.2」

(中文読解と文脈理解育成用)

副教材 ・ひらがな絵かきと (瞬時反応能力育成用)

・ひらがなの一と (構文力育成用)

・カタカナノート (説明文・会話文の用法育成用)

・漢字の一と1 (基礎漢字と文型理解育成用)

・漢字ノート2 (熟語漢字習得育成用)

・手渡し教材随時

【二年目 到達度試験 Eレベル～国試3レベル】

※ 日本人の専門学校生と同等レベルの言語能力に達することを目的としたコースです。そのため、マークシート方式の国家試験問題の解答能力だけでなく、文書で解答できる能力が育成できます。

※ 主教材 ・「100万人の日本語No.3」

(日本語の運用と活用育成用)

副教材 ・手渡し教材随時

・国家試験過去問題集

【三年目 スカイク授業 5回(1回2時間)】

※ 日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養い、国家試験合格を目的としたコースです。

※ 主教材 ・専門参考書

副教材 ・手渡し教材随時

・国家試験過去問題集

【指導内容】

① 職種に合わせた専門書の理解の仕方指導

② 類推力の育成で専門用語(熟語漢字)の対応指導

③ 要約力を養い実務能力の育成指導

【学習並びに、問題点を客観的に把握するために、以下の報告書提出し、現場の指導に役立てます。】

※ 【到達度試験】後は、毎回「考察票」を提出。

※ スカイク授業後は、毎回「授業内容報告書」を提出。

※ ※ 価格等の詳細については、メールでお問い合わせ下さい。

各段階の学習目標と、特徴

一 年 目	★基礎言語能力の育成 ①日本語の「規則性と用法」を理解させて、【自学能力】を養う。 ②1,755語の基本漢字が習得できて、日本人の中学2年生レベルの言語能力を養う。 ③会話力は、生活上に支障が無いレベルで、意思伝達能力は、話し相手と円滑にできる能力を養う。	●日本語能力を養う ①職場での会話力は、日本人の中学2年生レベルまで、できるようになる。 ②職員の指示を的確に内容把握でき、それに従って行動できるようになる。 ③読解力が身につくため、必要な日本語文の書類を読むことができるようになる。 ④簡単な業務日誌が書けるようになる。
二 年 目	★生活言語能力の育成 ①日本語の「運用力」を身につけ、正確な意思疎通力を養う。 ②仕事を自主的に行い、責任を持って業務を遂行する能力を養う。 ③日本語力を高校3年生レベルにし、夜勤業務に就ける能力を養う。	●国家試験受験能力を養う ①専門参考書の「技術編」を読み、文で答えられるようになる。 ②専門用語の漢字を「類推して読解」できるようになる。 ③自学で「過去問」ができるようになる。
三 年 目	★職域言語能力の育成 ①日本語を使った「業務実践力」を行える能力を養う。 ②会議等で意見を発言し、内容把握ができる能力を養う。 ③要約力を養い、会議等で的確なメモをとれる能力を養う。 ④日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養う。	●国家試験合格能力を養う ①専門参考書の抽象問題領域「法律・日本事情等」が読解できるようになる。 ②日本事情の専門知識を体系的に把握して読み理解できるようになる。 ③マークシートの解答ではなく文書による解答ができるようになる。

◎ 到達度試験Bコース(併用型)

< おまかせコース >

【一年目 到達度試験(初回~Dレベル)+スカイプ】

※【自学能力】を養える【到達度試験】と対面教育ができる「スカイプ授業」を併用しています。
日本人の中学2年生までの能力に達するプログラムで、特に、正しい会話力が身につけられるコースです。

※【自学能力】を養う教材を使用

主教材・「100万人の日本語No.1」
(日本語の規則性と用法育成用)

・「100万人の日本語No.2」
(中文読解と文脈理解育成用)

副教材・ひらがな絵カード(瞬時反応能力育成用)
・ひらがなの一と(構文力育成用)
・カタカナノート(説明・会話文の用法育成用)
・漢字の一と1(基礎漢字と文型理解育成用)
・漢字ノート2(熟語漢字習得育成用)

【二年目 到達度試験(E~国試1レベル)+スカイプ】

※日本人の専門学校生と同等レベルの言語能力に達することを目的としたコースです。

スカイプ授業併用型なので、マークシート方式の国家試験問題の解答能力だけでなく、文章で解答できるようにプログラムしています。

※【自学能力】を養う教材を使用

主教材・「100万人の日本語No.3」
(日本語の運用と活用育成用)

副教材・手渡し教材随時・国家試験過去問題集

【三年目 到達度試験(国試2,3レベル)+スカイプ】

※日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養い、国家試験合格を目的としたコースです。

日本人の職員と同等に業務ができるまでの能力に達するように、プログラムしています。
また、国家試験合格後でも、同じ職場で働く意欲を養うことも目的としています。

※主教材・専門参考書

副教材・手渡し教材随時・国家試験過去問題集

- 【指導内容】
- ① 職種に合わせた専門書の理解の仕方指導
 - ② 類推力の育成で専門用語(熟語漢字)の対応指導
 - ③ 要約力を養い実務能力の育成指導

【学習並びに、問題点を客観的に把握するために、以下の報告書を提出し、現場の指導に役立てます。】

※【到達度試験】後は、毎回「考察票」を提出。

※スカイプ授業後は、毎回「授業内容報告書」を提出。

※※ 価格等の詳細については、メールでお問い合わせ下さい。

各段階の学習目標と、特徴

一年目	★基礎言語能力の育成 ①スカイプ授業を併用するために、対面学習で、適切なプロの指導が受けられる。そのために、確実な日本語力が養える。 ②日本語の「規則性と用法」を理解させて、【自学能力】を養う。 ③1,755語の基本漢字を習得でき、日本人の中学2年生レベルの言語能力を養う。 ④会話力は、生活上に支障が無いレベルで、意思伝達能力は、話し相手と円滑にできる能力を養う。	●日本語能力を養う ①職場での会話力は、日本人の中学2年生レベルまで到達できる。 ②職員の指示を的確に内容把握でき、それに従って行動できる。 ③読解力が身につくため、必要な日本語文の書類を読むことができる。 ④簡単な業務日誌が書ける。 ⑤スカイプ授業は、受験者の表情を教師が読み取れるので、「本当に理解しているか、どうか」が判断でき、確実な言語能力がつく。
二年目	★生活言語能力の育成 ①日本語の「運用力」を身につけ、正確な意思疎通力を養う。 ②仕事を自主的にやり、責任を持って業務を遂行する能力を養う。 ③日本人の高校3年生レベルにし、夜勤業務に就ける能力を養う。 ④日常会話力が支障なく使える能力を養う。	●国家試験受験能力を養う ①専門参考書の「技術編」を読み、文で答えることができる。 ②専門用語の漢字を「類推して読み、意味理解」できる。 ③自学で「過去問」を解ける。 ④スカイプ授業併用型なので、問題・疑問が、その場で解決できる。
三年目	★職域言語能力の育成 ①業務の実践力を養う。 ②会議で意見を発言して内容把握でき、メモをとる能力を養う。 ③話の内容を的確に、まとめる能力を養う。 ④日本人社会人と同等レベルの言語能力を養う。 ⑤スカイプ授業なので日本人感覚の「語感・語調」を、正しくプロの教師が養う。	●国家試験合格能力を養う ①専門参考書の抽象問題領域「法律・日本事情等」が読解できる。 ②日本事情の専門知識を体系的に把握して、読み理解できる。 ③マークシートの解答ではなく、文章による解答ができる。 ④専門語彙と専門知識を自学できる。

【 国家試験受験能力到達度試験の特徴 】 EPA学習支援 こぼの研究社

【国家試験受験能力到達度試験】の特徴は、自学能力を養い、言語技能が並行的に伸び、受験者の対応能力が養えます。 教育効果は介護分野では、国家試験合格者を **3年間連続で、80%以上の実績を誇っています。** また、看護分野でも、EPA受験者全体の合格率が10%前後に留まっているのに対して、【到達度試験参加者】の合格率は、**55%**と高い水準を保っています。

これは、**受験者全体の合格率10%の5倍の高さ**を示しており、驚異的な合格率といえます。

※ 本試験は、あくまでも、専門領域で社会人として働ける能力を養うことを、重要視した学習方法です。

さらに、受験者が日常の業務の中で、日本人職員とのコミュニケーション能力をも身につけることができるために、介護施設や病院などで実践力のある要員として、育成することを目的としています。

※【到達度試験参加者】には、定期的に試験結果を「考察票」でお送り致します。「考察票」には、指導者用のために、具体的な指導方法を記しておりますので、安心してご指導頂けます。

レベル	合格基準	特徴	技能の種類	合格
3段階	75 % 専門学校卒の 言語能力	※ 国家試験に対する合格力と知識力を養う ◎ 国試問題に対する「文脈読解」と「要約力」 に対応できる学習をさせる。	★ 5 技能 ・ 瞬時反応 ・ 文脈読解力 ・ 要約力など	職 域 言 語 能 力 を 養 う
2段階	90 % 専門学校 2 年 の言語能力	※ 専門知識の活用力を養う ◎ 国試過去問を使った「漢字専門用語」（漢字 熟語）と「文脈読解力」に対応できる学習を させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応 ・ 漢字熟語力 ・ 文脈読解など	
1段階	90 % 専門学校 1 年 の言語能力	※ 専門知識の運用力を養う ◎ 国試過去問を中心とした問題で「読解力」 （語彙力・文意力）に対応できる学習をさせる。	★ 3 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	
F段階	85 % 高校 3 年の 言語能力	※ 専門領域の基礎力を養う ◎ 介護・看護の基礎知識を基に具体的な事例で 学習させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	生 活 言 語 能 力 を 養 う
E段階	80 % 高校 1 年の 言語能力	※ 日本語の「規則性と用法と運用力」を養う ◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 運用力が身につく学習をさせる。	★ 9 技能 ・ 文読解力 ・ 図読解力など	
D段階	75 % 中学校 2 年の 言語能力	◎ 日本語の用法を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 対応力 ・ 要約力など	
C段階	70 % 小学校 6 年の 言語能力	◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文脈力 など	基 礎 言 語 能 力 を 養 う
B段階 N2レベル	70% 小学校 4 年の 言語能力	※ 日本語の基礎知識を養う ◎ 日本語を表現するために必要な「基礎的な 知識とその使い分け」ができる能力を中心 として学習させる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 読解力など	
A段階 N3レベル	75 % 小学校 3 年の 言語能力	・ 構文力・読解力・文字（ひらがな・カタカナ・ 漢字）・助詞・接続詞の使い分けなど。	★ 13 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文字認知力 ・ 読解力など	
初回		受験者の現状の日本語能力を観る。		